

株主のみなさまへ

第15期中間報告書

2012年4月1日～2012年9月30日

株式会社トランスジェニック 証券コード 2342



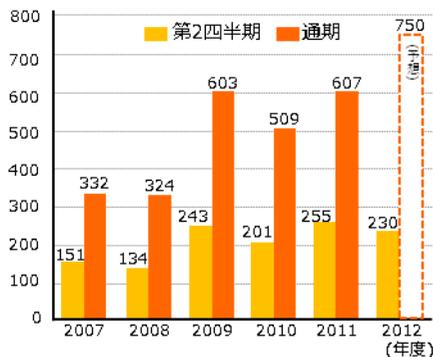
 **株式会社トランスジェニック**

ひとり一人の健康と豊かな暮らしの実現をめざして

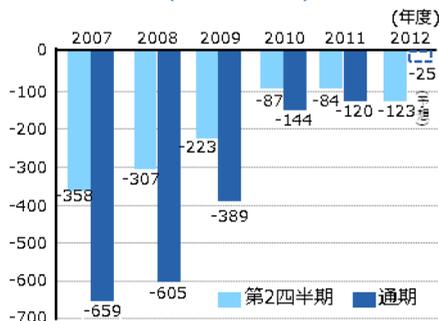
Highlights

連結決算ハイライト

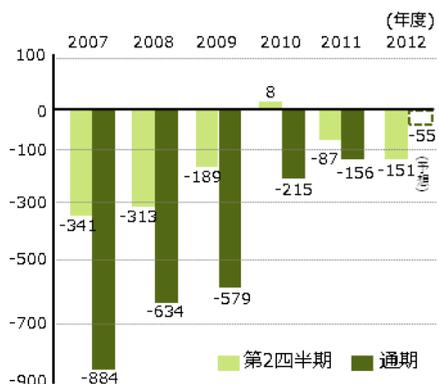
◆売上高 (単位: 百万円)



◆経常損益 (単位: 百万円)



◆当期純損益 (単位: 百万円)



概況

当社は、当第2四半期連結累計期間において、前期に引き続き更なる収益拡大及びコスト削減による収益基盤の確立を目指しました。しかしながら、製薬企業の委託費用の圧縮や公的研究予算執行の遅れから、当第2四半期累計期間における当社グループの業績は、売上高 230 百万円（前年同期 255 百万円）となりました。損益については、営業損失 125 百万円（前年同期 87 百万円）、経常損失 123 百万円（前年同期 84 百万円）、四半期純損失 151 百万円（前年同期 87 百万円）となりました。

セグメント別業績状況は、ジェノミクス事業における当第2四半期連結累計期間の受注高については営業と製造・開発現場の連携強化により、前年同期比 63.8%増と順調に増加しておりますが、下期以降の売上計上となるため、売上高は 98 百万円（前年同期 96 百万円）にとどまりました。また、新実験棟の稼働による各種経費増加により営業損失は 15 百万円（前年同期は営業利益 9 百万円）と減益となりました。CRO 事業においては、製薬企業のパイプラインの絞込みと委託費用の圧縮により受託獲得競争激化が続いており、当事業における当第2四半期連結累計期間の受注高は前年同期比 50.4%増となったものの、売上高は 42 百万円（前年同期 49 百万円）にとどまりました。また、新実験棟の稼働による各種経費増加により営業損失は 29 百万円（前年同期 12 百万円）と減益となりました。抗体試薬事業においては、公的研究費予算執行の遅れから、大学・公的機関では予算執行に慎重さが見られ、抗体製品販売が減少したことから、当事業における当第2四半期連結累計期間の売上高は 90 百万円（前年同期 109 百万円）、営業利益は 13 百万円（前年同期 17 百万円）と減益となりました。

Top Message

ご挨拶

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第15期の中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当社は生命資源の開発を通じて社会に貢献する企業を目指しております。

当事業年度においては、新実験棟稼働によりジェノミクス事業及びCRO事業では製造・開発体制の集約・効率化を図るとともに、抗体試薬事業においては、引き続き当社が保有する知的財産の事業化について推進を図っております。

当社はこれらの重点施策に全社員一丸となって取り組み、社会的貢献度の高い企業へ成長し続けることで、企業価値のさらなる向上を実現させる所存です。

株主のみなさまにおかれましては、当社の取り組みに何卒ご理解をいただき、なお、一層のご支援を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

2012年12月 代表取締役社長

福永健司



Profile 略歴

1969年8月13日生まれ

1993年10月 有限責任監査法人トーマツ入所

2003年5月 トーマツ・ベンチャーサポート株式会社取締役

2009年6月 株式会社トランスジェニック取締役

2010年6月 株式会社トランスジェニック代表取締役社長現任

Contents 目次

連結決算ハイライト・・・・・・・・・・1

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・2

トップインタビュー・・・・・・3

事業のご紹介・・・・・・・・・・5

研究開発のご紹介・・・・・・・・・・7

知的財産戦略・・・・・・・・・・8

連結財務諸表・・・・・・・・・・10

会社概要・・・・・・・・・・11

株式の状況・・・・・・・・・・11

株主メモ・・・・・・・・・・11

IRからのお知らせ・・・・・・・・11

Top Interview

トップインタビュー

Q1. 第2四半期の業績の減収減益、および下方修正に至った要因についてお聞かせください。

当第2四半期段階においては、製薬企業の委託費用の圧縮や公的研究費予算執行の遅れ等の厳しい環境要因もあり、売上高は230百万円（前年同期255百万円）と苦戦、経常損失123百万円（前年同期84百万円）と損益も悪化する結果となりました。この結果は、黒字化を目指し設定した期首予算以下であり、また、この厳しい環境は当面継続することが想定されることから下方修正を公表するに至りました。

Q2. 平成25年3月期業績見通しについてお聞かせください。

「選択と集中」を掲げての主力3事業への注力および抜本的な経費削減により損益構造強化を図ることで、前年度の売上高607百万円から142百万円の増収を見込んでいます。その結果、平成25年3月期業績予想については、売上高750百万円（前年同期607百万円）の見込みです。また、損益については、営業利益▲30百万円（前年同期▲127百万円）、当期純利益▲55百万円（前年同期▲156百万円）とこれまでと同様に大幅改善の見込みです。



Q3. 中長期的な戦略についてお聞かせください。

当社は、「選択と集中」「コスト削減」を継続し収益構造の改革を図ってまいりました。また、平成 25 年 3 月期より、さらなる事業基盤強化を目的として事業部制に移行し、営業と製造・開発現場の連携強化を図りました。その結果、受注獲得状況については、遺伝子破壊マウス事業と遺伝子解析事業からなるジェノミクス事業は前年同期比 64%増、非臨床試験の受託をする CRO 事業も 50%増と好調に推移しています。現場の士気も高まっており、今後もこの傾向が維持することを期待しています。

そして、中長期的な収益拡大を見込んで神戸に建設した新実験棟は、7 月から本格稼働しており、この効果は体制が整った当下期及び来期以降に確実に具現化すると考えています。中長期的な収益基盤の確立に向けた各種施策については着実に実行しておりますので、通過点である黒字化はもちろん企業価値向上の地盤も着実に固まりつつあります。



Q4. 最後に、株主様へのメッセージをお願いいたします。

当上半期は、この 4 力年の中で初めての減収・減益と厳しい業績結果となり、株主の皆様にはご心配をおかけして大変申し訳なく思っております。しかしながら、前述のとおり、収益基盤強化とその通過点である黒字化への準備はこれまで同様着実に進行しており、通期におきましては株皆様のご期待に答える結果を出せるよう、全社一丸で取り組む所存です。

そして、生命資源の開発を通じて社会に貢献する研究開発型ベンチャーとして、企業価値向上の取り組みを加速いたします。

株主の皆様におかれましては引き続きご支援賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



Our Business

事業の紹介

ジェノミクス事業

【主な製品・サービス】

- TG Resource Bank®
- 遺伝子改変マウス作製
- 遺伝子解析
- モデル動物販売

ノックアウトマウス、ノックインマウス、トランスジェニックマウスなどの遺伝子改変マウスの作製、次世代シーケンス解析などの遺伝子解析関連受託サービス、病態可視化マウスなどのモデルマウス販売を提供しています。これまでに遺伝子改変マウス 1,000 系統以上、ES 細胞 2,200 系統以上の豊富な作製実績を有しています。また、遺伝子改変マウス作製技術を基盤技術とし、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの研究開発に取り組んでいます。

CRO 事業

【主な製品・サービス】

- 薬効薬理試験
- 安全性薬理試験
- 薬物動態試験

マウス・ラットからサル・ブタまで幅広い薬効薬理試験、安全性薬理試験、薬物動態試験などの非臨床試験受託サービスを提供しています。薬効薬理試験においては、各種動物を用いて病態モデルを作製し、医薬品等の評価を実施しています。安全性薬理試験においては、サルを用いたテレメトリー法による心・血管系に関わる試験を実施しています。薬物動態試験においては、非標識体を用いた各種動物、病態モデル動物を用いた ADME 試験を実施しています。

可変型遺伝子トラップ法

熊本大学生命資源研究・支援センター 教授 山村研一（当社取締役）らにより発明された、遺伝子改変マウスの効率的な作製方法であり、トラップベクターによりマウス ES 細胞に発現する遺伝子をランダムに完全破壊する方法です。従来のトラップ法に比べて、遺伝子の完全破壊が行えること、破壊した遺伝子の位置にヒト遺伝子や突然変異などを挿入可能であることが特徴であり、ヒト疾患モデル動物の開発や詳細な遺伝子機能解析に有用な手法です。当社は、本技術を基軸とした遺伝子破壊マウス作製技術を基幹事業としています。

ヒト化マウス

ヒト化マウスとは、便宜的に遺伝子レベルでのヒト化マウス、細胞レベルでのヒト化マウス、組織・臓器レベルでのヒト化マウスの 3 種類があります。遺伝子レベルでのヒト化マウスは、トランスジェニック社が持つ可変型遺伝子トラップ法または可変型相同組換え法によりすでに作製可能です。細胞レベルでのヒト化マウスの例としては、ヒト白血球を持つマウス、ヒト抗体を産生するマウスがあげられます。当社は、熊本大学とヒト化マウス開発に関する共同研究をすすめております。本共同研究で目指すのは、組織・臓器レベルでのヒト化マウスでマウスの生体内で正常にヒト組織や臓器を再構築し、持続的に機能をさせ、ヒトの細胞や組織が拒絶されることなく体内に存在するマウスです。例えば、ヒトの肝臓を持つマウスなどがあります。このようなヒト化マウスを用いることにより、非臨床試験（新薬の安全性テスト）や創薬研究がよりヒトの状態を反映したモデルで進めることが可能となります。

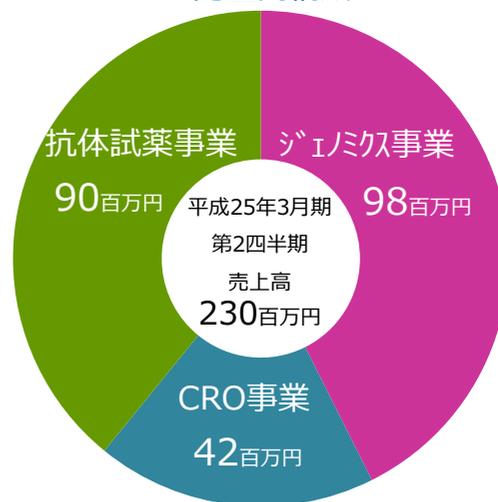
抗体試薬事業

【主な製品・サービス】

- モノクローナル抗体作製
- 研究用試薬販売
- タンパク質高発現細胞作製

GANP®マウス技術を基盤とした高親和性・高特異性モノクローナル抗体作製、タンパク質高発現細胞作製の受託サービス、自社開発抗体製品を含む試薬製品販売を提供しています。GANP®マウス技術は、分子上の小さな違い(アミノ酸1残基)を識別する抗体、小さい分子(低分子化合物)を認識する抗体、中和抗体、ファミリー分子を個別認識する抗体を作製する技術です。GANP®マウス技術により作製した抗体を用いて、外部研究機関と共同でがんマーカーなどの診断薬の研究開発に取り組んでいます。

▼売上高構成

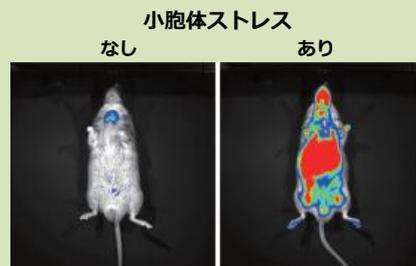


GANP®マウス技術

GANP (Germinal Center Associated Nuclear Protein) とは、熊本大学 阪口薫雄教授らにより発見された遺伝子で、抗体を産生するB細胞で発現しています。GANP®マウス技術とは、このGANP遺伝子を過剰に発現させたGANP®マウスを用いて抗体を作製する技術です。GANP®マウスで得られる抗体は、親和性や特異性の高いことが特徴で、診断薬や抗体医薬の開発への展開が可能です。当社は、本技術による抗体の自社製品開発、および本技術のライセンス供与を行い、抗体事業収益の柱としております。

病態可視化マウス (細胞ストレス可視化マウス)

病態可視化マウスは、がん、メタボリックシンドローム、動脈硬化、リウマチなど様々な疾患と関連すると考えられている「小胞体ストレス」「酸化ストレス」について、マウス生体でリアルタイムに細胞ストレス部位を簡便に可視化することを可能にしたものであり、疾患モデルマウスの病態解析や、薬理・毒性試験に有用なシステムを提供します。



R&D

研究開発の紹介

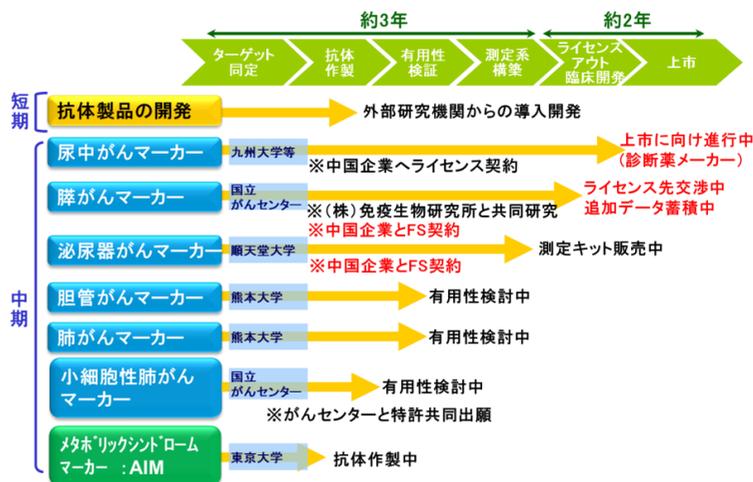
研究開発方針

研究開発テーマについては、収益基盤の早期確立を目指すため、選択と集中を基本に絞り込みを行って参りました。今後は選択と集中を進める中で、ジェノミクス事業における有用なモデルマウス開発の開始、さらに抗体事業におけるシーズ探索の拡充の一環として各研究機関との共同研究を通じた、将来的に収益化につながるプロジェクトに経営資源を投入します。

研究開発パイプラインの進捗状況

当社は、GANP®マウス技術を用いて作製した抗体を様々なバイオマーカーとして診断薬へ展開するよう研究開発を進めております。

バイオマーカー開発パイプラインの充実を図ることで、抗体事業のブランド力を高めて参ります。



研究開発トピックス 2012年

2月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 新実験棟の竣工 ➢ 遺伝子事業の譲り受け ➢ 抗ヒト SPINK モノクローナル抗体の発売 	7月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本安全性薬理研究会 第2回技術交流会「ラボワーク技術交流会」が当社新実験棟で開催 ➢ タンパク質高発現細胞作製技術の研究結果が PLOS ONE に掲載
5月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 日本実験動物科学・技術九州 2012 にてランチョンセミナー開催 ➢ 細胞ストレス可視化マウスに関する独占ライセンス契約締結 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 「GANP®マウス技術」に関する特許が日本にて成立
6月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 抗 DYKDDDDK モノクローナル抗体の研究結果が Analytical Biochemistry に掲載 ➢ 抗 AIM モノクローナル抗体の発売 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 細胞ストレス可視化レポーター プラスミドの発売 ➢ 抗ヒト アクチニン-4 splice variant モノクローナル抗体の発売

Intellectual Property Report

知的財産戦略

知的財産戦略の方針

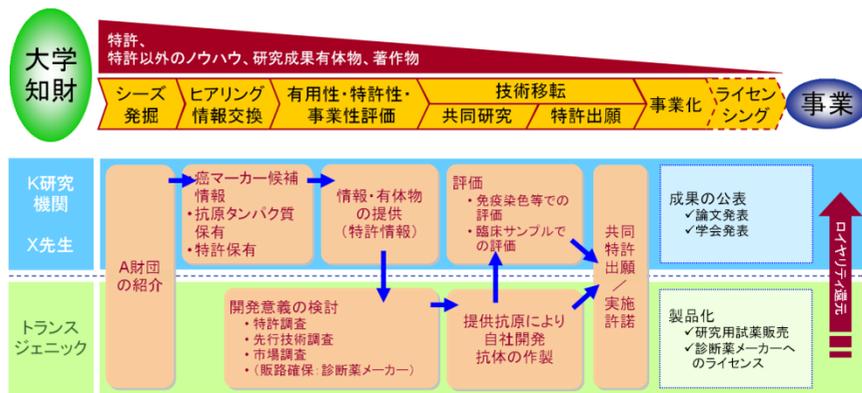
当社は、創薬ターゲットを探索している製薬企業や疾病の解明に取り組む研究者へ、有益な研究ツール、技術情報、知的財産を提供することにより、創薬、病態の解明に貢献したいと考えております。

また、当社は、大学・研究機関等との共同研究を積極的に行い、当社事業とシナジー効果が発揮でき得る技術を、研究開発の早期段階において導入することにより、その技術が公開される前に確実な知的財産権を確保するとともに、豊富な実験データに裏付けられた強い特許、将来のマーケティングを見据えた特許網を

構築すべく、研究開発、事業戦略と融合させた特許戦略を展開しております。さらに、導入した技術を付加価値の高い技術や知的財産に育て、これらの技術から生まれた独自性の強い製品・サービスを提供するとともに、知的財産、技術情報のライセンスビジネスを展開しております。知的財産のライセンスについては、製薬企業、診断薬メーカーなどの開発・事業のステージにあわせたマイルストーンを設定することにより、複数の事業ドメインを対象としたハブアンドスポークモデル型のライセンス契約とするなど、戦略的な知的財産の活用に取り組んでおります。

特許・ライセンスの事業への貢献

当社特許の事業への貢献度は高く、当社は保有特許の極めて高い実施率を保っております。また、積極的なライセンスイン、ライセンスアウトを通じて、直接的な収入の増加のみならず、事業の優位性を図り、将来を見据えた中長期的な知的財産戦略を実行しております。



事業戦略、研究開発戦略、知的財産戦略の横断的な取り組み

当社は、ジェノミクス、CRO、抗体試薬の各事業部制組織と経営企画室を設けております。

ジェノミクス事業部は、マウス作製受託を中心に、CRO 事業部は非臨床試験受託、また抗体試薬事業部は抗体作製受託とともに、新規腫瘍マーカーの開発や抗体製品販売を担っております。

経営企画室は、経営戦略に関わる事項および知的財産およびライセンスの管理を担っており、知的財産戦略の策定・実行から自社で創出された技術の権利化や活用、さらに他社の技術動向の調査や侵害の有無、技術提携や知的財産の戦略的な導入等、知的財産に関する

業務全般も担っております。また、社内での知的財産教育にも努めており、社内各部署への自社・他社の知的財産関連情報の発信、戦略的な知的財産の取得を目指した研究開発の指針などの提起を行っています。

当社のようなベンチャー企業にとっては、国内外の大学などの学術機関や製薬企業などとの連携が極めて重要となります。当社は、知的戦略部門を中心に、大学の知財部等から積極的に技術導入やライセンスを受けると同時に、製薬企業や委託企業などとの業務提携や技術提供を行い、当社事業の拡大・強化に努めています。

リスク対応情報

2012年9月末時点において、当社に対する特許訴訟やクレームはありません。当社は、自社知的財産の管理・運営のみならず、他社知的財産の調査・監視を徹底しております。新たな研究開発を開始する前には、特許事務所等へ特許調査を依頼し、自社技術が他社の特許侵害に当たらぬよう、リスクマネジメントに努めております。

主な特許成立状況

トランスジェニック社の特許群は、トラップ技術関連、GANP®マウス技術関連、腫瘍マーカーなど、事業の根幹となっております。これらの知的財産をもとに、国内外の複数の企業とライセンス契約を積極的に進めてまいります。

- 
- | | |
|---------------|----------------------|
| ○トラップ法関連 | 日本、米国、欧州、豪州、中国、香港 |
| ○尿中がんマーカー関連 | 日本、米国 |
| ○瞬がんマーカー | 日本 |
| ○GANP®タンパク質 | 日本、米国、カナダ |
| ○GANP®マウス関連特許 | 日本、米国、欧州、豪州、中国、香港、韓国 |

Financial Statements

連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期 連結会計期間 (平成24年9月30日)
(資産の部)		
流動資産	1,663,867	1,439,630
固定資産	838,514	828,312
資産合計	2,502,381	2,267,943
(負債の部)		
流動負債	184,321	83,904
固定負債	20,739	39,104
負債合計	205,060	123,009
(純資産の部)		
株主資本	2,280,874	2,129,502
資本金	5,404,263	5,404,263
資本剰余金	546,743	546,743
利益剰余金	△3,668,350	△3,819,721
自己株式	△1,782	△1,782
その他の包括利益累計額	3,601	2,080
新株予約権	8,312	8,312
少数株主持分	4,533	5,038
純資産合計	2,297,321	2,144,934
負債純資産合計	2,502,381	2,267,943

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△116,626	△62,003
投資活動によるキャッシュ・フロー	△684,725	△94,373
財務活動によるキャッシュ・フロー	68	-
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△801,283	△156,376
現金及び現金同等物の期首残高	1,993,125	1,398,536
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,191,842	1,242,160

四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	255,052	230,876
売上原価	161,681	183,803
売上総利益	93,370	47,072
販売費及び一般管理費	180,769	172,811
営業損失(△)	△87,398	△125,738
営業外収益	2,794	2,718
営業外費用	123	566
経常損失(△)	△84,727	△123,586
特別損失	-	19,634
税金等調整前四半期純損失(△)	△84,727	△143,221
法人税、住民税及び事業税	2,626	2,857
法人税等調整額	△73	4,787
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△87,281	△150,866
少数株主利益	354	504
四半期純損失(△)	△87,635	△151,371

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：千円)

	前第2四半期 連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期 連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△87,281	△150,866
その他の包括利益	△127	△1,520
四半期包括利益	△87,408	△152,387
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△87,762	△152,892
少数株主に係る四半期包括利益	354	504

会社概要

2012年9月30日現在

会社名 株式会社トランスジェニック

設立 1998年4月

資本金 5,404百万円

従業員数 33名

事業所

本社※ 熊本県熊本市中央区九品寺二丁目1番24号

神戸研究所 兵庫県神戸市中央区港島南町七丁目1番地14

東京オフィス 東京都千代田区霞が関三丁目7番1号

※2012年12月13日移転

株式の状況

2012年9月30日現在

発行可能株式総数 436,301株

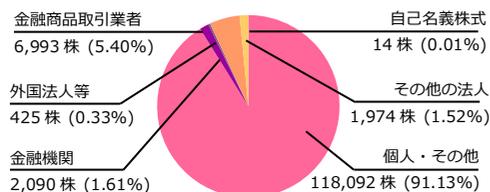
発行済株式の総数 129,578株

株主数 11,944名

大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
野村證券株式会社 野村ネット&コール	2,201	1.69
坂本 佐兵衛	1,950	1.50
日本生命保険相互会社	1,350	1.04
上永 智臣	1,045	0.80
大橋 哲二	955	0.73
マネックス証券株式会社	891	0.68
GMOクリック証券株式会社	850	0.65
佐賀 芳行	800	0.61
原田 育生	768	0.59
三松 成子	742	0.57

所有者別株主分布状況



役員

代表取締役社長 福永 健司 常勤監査役 鳥巢 宣明

取締役 山村 研一 監査役 遠藤 了

取締役 坂本 珠美 監査役 佐藤 貴夫

取締役 船橋 泰

取締役 清藤 勉

株主メモ

証券コード 2342

上場市場 東京証券取引所 マザーズ

上場日 2002年12月10日

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日 定時株主総会・期末配当 毎年3月31日
中間配当 毎年9月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

公告方法 電子公告 (当社ホームページに掲載)

※事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

IRからのお知らせ

最新トピックスやホームページの更新情報などを電子メールでお知らせしています

ご登録は当社ホームページにて受け付けています。



<http://www.transgenic.co.jp/>